

2024年度 町田市立南つくし野学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年2月27日

学校教育目標	○元気な子 ○考える子 ○思いやりのある子 ○やりとげる子	学校経営の重点 ①「思いやりのある子」の育成のため、人権の意義・内容や重要性について理解し、自他のよさを認め、共生の心を育み、いじめ防止に努め、人権教育を推進する。 ②「考える子」の育成のため、自立的な学びと協働的な学びを教科横断的に設定して、ICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びを実現する教育活動を推進する。
○目指す学校像	①児童一人一人の個性や可能性を伸ばし、自立と共生の基礎を培う学校 ②保護者・地域に信頼される、安全で挨拶あふれる学校 ③教職員が一致団結、一人一人が力を発揮する笑顔と活力のある学校	重点目標の成果と課題 ①(成果)道徳授業の改善と道徳教育の充実を図り、自己理解・他者理解を通して相手を思いやろうとする意識の向上が見られた。 (課題)いじめをしない子供を育成として、自己有用感・自己肯定感の高い子供を育てていく必要がある。 ②(成果)ICT機器を学習ツールとして授業に活用した協働的な学びが前進した。 (課題)主体的・対話的な学びを充実させるための授業改善を一層進める必要がある。
○目指す児童像	①健康で安全な生活を実践し、体力の向上に努めるたくましい子 ②みんなと協力し、自ら学び、伝える力を高め、確かな学力を身に付ける子 ③人間の多様性を認め合い、思いやりのある豊かな心と行動力をもつ子 ④未来への夢や目標をもち、その実現に向けて努力し続ける子	
○目指す教師像	「全教職員で全児童を育てる」をモットーに ①子供を信じ、子供と心通わせ、子供と信頼関係を築いていく、子供の成長のために資質向上に努める教師 ②学校教育目標の達成を目指した教育活動を、共通認識・共通理解のもと日々実践する教師 ③家庭・地域との連携を深め、学校との信頼関係を高める教師	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	定期的な情報発信を意図的・計画的に行い、家庭・地域との情報共有を推進する。	ホームページ、学校・学年・学級だより、学級クラスルームを活用して、家庭・地域への情報発信を定期的に行う。	4 HP・学級だより等での週に1回以上の情報発信 3 HP・学級だより等での月に3回以上の情報発信 2 HP・学級だより等での月に2回以上の情報発信	2.6	C	4 保護者アンケートⅡ-3-(1)「開かれた学校」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-3-(1)「開かれた学校」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-3-(1)「開かれた学校」肯定的評価 55%以上	82	B	HPIには、学校の様子を毎日更新したが、保護者アンケートでは十分な結果には至らなかった。	HPIにあげる内容を検討したり、クラスルームを使っているが、それについて学級だよりで紹介していただく地域とのつながりやCSについての理解が広がっていき、また可能であれば、保護者も参加していただければ理解が深まる。	・地域の外部講師を招いての授業を各学年ごとに実施しているが、それについて学級だよりで紹介していただく地域とのつながりやCSについての理解が広がっていき、また可能であれば、保護者も参加していただければ理解が深まる。	A
			保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに教育活動を積極的に公開する。	4 意識して取り組み、85%以上達成 3 意識して取り組み、70%以上達成 2 意識して取り組み、55%以上達成 1 意識して取り組んだが、達成率は55%未満	3.5	A	4 保護者アンケートⅡ-3-(4)「学校公開」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-3-(4)「学校公開」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-3-(4)「学校公開」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-3-(4)「学校公開」肯定的評価 55%未満	98	A	高い評価をいただいた。学校公開の回数(時間数)を増やしたためであると思われる。	学期に1回以上は公開する機会を作るなどして、学校の様子や伝えるとともに、保護者との連携を深めていく。		
			家庭との連携をよりいっそう強化する。	家庭と連携して、宿題や家庭学習に進んで取り組む態度を育てる。 欠席連絡フォーム・電話・連絡帳を活用し、保護者への連絡・相談を、誠実、細やか、迅速に実施し、対応する。	4 85%以上の家庭と連携して実施 3 70%以上の家庭と連携して実施 2 55%以上の家庭と連携して実施 1 連携して実施できた家庭が55%未満 4 85%以上の案件で実施 3 70%以上の案件で実施 2 55%以上の案件で実施 1 実施できた案件が55%未満	3.6	A	4 保護者アンケートⅡ-1-(2)「宿題や家庭学習」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-1-(2)「宿題や家庭学習」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-1-(2)「宿題や家庭学習」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-1-(2)「宿題や家庭学習」肯定的評価 55%未満	78	B	tetoruを活用したことで、欠席連絡等はスムーズになった。	保護者が思っている以上に保護者の評価は高くなかった。家庭との連携の仕方について確認していく。	・授業地区公開講座では、「道徳」に関する内容の反映は少なく、内容の充実と集客を両立させるのは難しいと感じる。
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる できる つくる 楽しい授業」を展開する。	ICT機器やGoogle for Educationを活用して、分かりやすい教材提示や個別最適な学習を実施し、児童の学習への関心・意欲を高める。	4 85%以上の児童が身に付いた。 3 70%以上の児童が身に付いた。 2 55%以上の児童が身に付いた。 1 身に付いた児童が55%未満	3.5	A	4 保護者アンケートⅡ-1-(1)「基本的な知識の理解」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-1-(1)「基本的な知識の理解」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-1-(1)「基本的な知識の理解」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-1-(1)「基本的な知識の理解」肯定的評価 55%未満	92	A	多くの児童が学習中は学びに対して真摯に取り組んでいる。	引き続き、家庭の協力を得ながら、学習習慣や学習内容の理解の定着を図っていく。	・欠員による算数少人数の一時停止は仕方ないものではありますが、なるべく早期に解決されるよう願っています。	
			自分の考えを多様な方法で表現させるなど、児童同士のコミュニケーションを活性化し、対話的な学びを充実する。	4 85%以上の児童が自分の考えを表現 3 70%以上の児童が自分の考えを表現 2 55%以上の児童が自分の考えを表現 1 自分の考えを表現する児童が55%未満	3.2	B	4 児童アンケートで85%以上の児童が自分の考えを表現 3 児童アンケートで70%以上の児童が自分の考えを表現 2 児童アンケートで55%以上の児童が自分の考えを表現 1 児童アンケートで自分の考えを表現する児童が55%未満	74	B	話し合い活動を取り入れ、多くの児童が自分の考えを表現することが多くなりつつある。	ねらいを明確にした話し合い活動を多くの授業の中で取り入れ、児童の表現力を高めていく。		
			児童の学習への意欲・関心を高め、主体的に学び続ける児童を育成する。	ICT機器やGoogle for Educationを活用して、分かりやすい教材提示や個別最適な学習を実施し、児童の学習への関心・意欲を高める。 主体的に学びに向かう児童を目指し、読書にすすんで取り組む学習態度を育てる。	4 85%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 3 70%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 2 55%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 1 児童の学習への関心・意欲が向上した児童が55%未満 4 85%以上の児童がすすんで読書に取り組んだ。 3 70%以上の児童がすすんで読書に取り組んだ。 2 55%以上の児童がすすんで読書に取り組んだ。 1 すずんで読書に取り組んだ児童が55%未満	3.3	B	4 児童アンケートで85%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 3 児童アンケートで70%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 2 児童アンケートで55%以上の児童の学習への関心・意欲が向上 1 児童アンケートで学習への関心・意欲が向上した児童が55%未満	86	A	2学期以降の学年も積極的にICT機器を活用することで、児童の関心意欲が高まっていった。	学年の発達段階に応じた内容をその都度身につけさせ、学習の用具の一つとして更なる活用を図っていく。	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にしようとする意欲・態度を育てる。	生命を大切にしようとする心や他人を思いやる心、規範意識等を育てる。	道徳授業の振り返り・終末活動の工夫を通して、自ら感じ、考え、お互いを認め合う児童を育成し、児童が優しい気持ちで友達と接している。	4 85%以上の道徳授業で振り返り・終末活動の工夫を実施 3 70%以上の道徳授業で振り返り・終末活動の工夫を実施 2 55%以上の道徳授業で振り返り・終末活動の工夫を実施 1 道徳授業での振り返り・終末活動の工夫の実施が55%未満	3.3	B	4 児童アンケートで85%以上の児童が振り返りを実施 3 児童アンケートで70%以上の児童が振り返りを実施 2 児童アンケートで55%以上の児童が振り返りを実施 1 児童アンケートで振り返りを実施した児童が55%未満	85	A	道徳の授業での振り返りは毎時間行っているの、さらに工夫ができるようになっていく。	引き続き、終末活動を工夫して、毎時間、価値項目が児童の心にしみわたるような授業を行っていく。	・基本的に優しく穏やかな子供が多い印象で、日ごろのお声かけのおかげで思いやりのある授業を行っている。いじめ対策の取り組みについては、見えにくいですが、不安は今のところ感じません。	
			いじめ対策委員会を定期的に実施し、いじめの見逃しゼロを目指していじめの早期発見・早期解決を行う。	4 すべてのいじめ事案に対して迅速に指導を実施 3 85%以上のいじめ事案に対して迅速に指導を実施 2 70%以上のいじめ事案に対して迅速に指導を実施 1 迅速に指導を実施したいじめ事案が70%未満	3.9	A	4 保護者アンケートⅡ-2-(1)「いじめ・体罰」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-2-(1)「いじめ・体罰」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-2-(1)「いじめ・体罰」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-2-(1)「いじめ・体罰」肯定的評価 55%未満	68	C	毎月のいじめ対応チームで教員同士で現状を共有していたが、保護者への周知については、課題がある。	毎月のこのころのアンケートも実施し、いじめ未然防止に努めていることを学校だより等で周知していく。	・授業中に子供の意見や行動に先生が、いいですね、素晴らしいですね、〇〇ができていますね、なるほど…などと声をかけられている、行動や発言をためらわずにできるようなクラスの雰囲気をつくられていると思う。	
			教師自ら率先して挨拶をすることで、将来の社会生活の基礎となる挨拶の習慣化を徹底する。	4 85%以上の児童が挨拶する習慣を身に着けた。 3 70%以上の児童が挨拶する習慣を身に着けた。 2 55%以上の児童が挨拶する習慣を身に着けた。 1 挨拶する習慣を身に着けた児童が55%未満	3.4	B	4 児童アンケートで児童の85%以上が肯定的評価 3 児童アンケートで児童の70%以上が肯定的評価 2 児童アンケートで児童の55%以上が肯定的評価 1 児童アンケートで児童の満足率が55%未満	94	A	児童の中では挨拶への意識が高く、かなり高い評価を得た。	今後も教員が範を示しながら、引き続き挨拶の大切さについて指導していく。		
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力を向上させる。	体力テストの結果を生かした体育科授業や運動時間の工夫・充実を図り、基礎体力を向上させる。	4 85%以上の指導場面で工夫・充実を行い実施 3 70%以上の指導場面で工夫・充実を行い実施 2 55%以上の指導場面で工夫・充実を行い実施 1 工夫・充実を行った指導場面で55%未満	3.3	B	4 児童アンケートで児童の85%以上が肯定的評価 3 児童アンケートで児童の70%以上が肯定的評価 2 児童アンケートで児童の55%以上が肯定的評価 1 児童アンケートで児童の満足率が55%未満	83	B	運動時間を設定し、児童の体力向上への意欲付けを図ったことで、児童アンケートの結果は概ねよかった。	児童数の割に校庭が狭いので、運動時間の際に更なる運動意欲の向上を図っていく。	・校庭が狭いので、体力面については、難しい一面がある。体育の授業等で子供たちが楽しく運動に取り組める環境づくりができてよ。運動習慣と食育はご家庭の協力も必要だと思ふ。	
			担任・養護教諭・栄養士が指導方針等を共通理解し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。	4 月に2度以上、関心を高める指導を実施 3 月に1度以上、関心を高める指導を実施 2 学期に2度以上、関心を高める指導を実施 1 関心を高める指導の実施は学期に2度未満	2.6	C	4 保護者アンケートⅡ-1-(8)「食習慣・生活習慣」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-1-(8)「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-1-(8)「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-1-(8)「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	80	B	給食試食会を年1回開催し、毎月の給食だよりで食育について知らせたが、担任との連携は不十分であった。	給食指導の際に、栄養士と定期的に連携することで、職員に対する意識を高めていく。	・今年復活した給食試食会はぜひ今後も継続していただきたい。	
			学校のきまりやネットマナー等の安全指導・安全教育を実施し、毎日の生活を安全・安心に過ごせるようにする。	4 毎日、定着を図る指導を実施 3 週に2回は、定着を図る指導を実施 2 週に1回は、定着を図る指導を実施 1 定着を図る指導の実施は、週に1回未満	3.2	B	4 保護者アンケートⅡ-2-(4)「ネットマナー」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-2-(4)「ネットマナー」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-2-(4)「ネットマナー」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-2-(4)「ネットマナー」肯定的評価 55%未満	57	C	各学級での指導が十分ではなく、保護者からの評価について知らせている。家庭との連携が必要である。	ネットマナーは学校だけでは指導は不十分なので、保護者会や学校だより等で保護者と共有し、連携を図る。	・安全対策については、学校のガイドラインを学童保育クラブやまちどもにも共有してもらえとありがたい。学校の方法に準ずることが児童にとって最もスムーズな対応となるため。	
健全な心の涵養	児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う	学校の行事や委員会・クラブ・係活動などで児童の主体的な活動を生み出し、人間関係形成・社会形成能力を高める。	4 85%以上の指導場面で児童の主体的な活動を生み出した。 3 70%以上の指導場面で児童の主体的な活動を生み出した。 2 55%以上の指導場面で児童の主体的な活動を生み出した。 1 児童の主体的な活動を生み出した指導場面で55%未満	3.5	A	4 児童アンケートで児童の85%以上が肯定的評価 3 児童アンケートで児童の70%以上が肯定的評価 2 児童アンケートで児童の55%以上が肯定的評価 1 児童アンケートで児童の満足率が55%未満	84	B	教員の声掛け等で児童が主体的に取り組む場面が多く見られた。	次年度も引き続き、児童の意欲が高まる言葉かけや賞賛の機会を多くし、児童の意欲を引き出していく。			
			児童の問題行動、交通安全、不審者、地震・風水害などの自然災害への対策など、危機管理情報を校内で共有する。	4 90%以上の必要情報に対して実施 3 80%以上の必要情報に対して実施 2 70%以上の必要情報に対して実施 1 70%未満の必要情報に対してしか実施できず	3.8	A	4 保護者アンケートⅡ-2-(3)「安全意識」肯定的評価 85%以上 3 保護者アンケートⅡ-2-(4)「安全意識」肯定的評価 70%以上 2 保護者アンケートⅡ-2-(4)「安全意識」肯定的評価 55%以上 1 保護者アンケートⅡ-2-(4)「安全意識」肯定的評価 55%未満	89	A	教員の意識が高く、保護者からもかなりの評価をいただいた。	安全意識では教員の意識を更に高め、緊急時には各人が率先して行動できるようにしていく。		

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)

取組指標平均	3.5以上	⇒	評語A
取組指標平均	3以上3.5未満	⇒	評語B
取組指標平均	2以上3未満	⇒	評語C
取組指標平均	2未満	⇒	評語D

成果指標評価基準

成果指標平均	85%以上	⇒	評価A
成果指標平均	70%以上	⇒	評価B
成果指標平均	55%以上	⇒	評価C
成果指標平均	55%未満	⇒	評価D

学校関係者評価の評価基準について

A⇒	取組・成果ともに十分評価できる
B⇒	取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒	目標に対し不十分、次年度の改善が必要
D⇒	大きな課題あり、次年度、重点的に改善